

令和5年塩尻市議会7月臨時会

塩尻市総合計画特別委員会会議録

○日 時 令和5年7月27日(木) 午前11時40分

○場 所 第一・第二委員会室

○1 協議事項

(1) 第六次塩尻市総合計画 長期戦略案について

○2 その他

○出席委員

委員長	中村 努 君	副委員長	上條 元康 君
委員	古畑 秀夫 君	委員	百瀬 友彦 君
委員	小松 勝子 君	委員	小口 直実 君
委員	小野 芳幸 君	委員	石井 勉 君
委員	山崎 油美子 君	委員	樋口 千代子 君
委員	青木 博文 君	委員	赤羽 誠治 君
委員	平間 正治 君	委員	小澤 彰一 君
委員	篠原 敏宏 君	委員	中野 重則 君
委員	青柳 充茂 君	委員	牧野 直樹 君

○欠席委員

なし

○説明のため出席した理事者・職員

副市長	石坂 健一 君	企画政策部長	高砂 進一郎 君
企画課長	紅林 良一 君	企画課企画係長	上間 匠 君

○議会事務局職員

事務局長	山崎 浩明 君	事務局次長	宮原 勝広 君
事務局係長	酒井 千鶴子 君	事務局主事	清沢 光晴 君

午前11時39分 開会

○委員長 それでは、ただいまから塩尻市総合計画特別委員会を開会いたします。

開会に当たり、理事者から挨拶があればお願いいたします。

理事者挨拶

○副市長 大変お忙しい中、塩尻市総合計画特別委員会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。これから御説明申し上げます内容につきまして、忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。私からは以上です。

1 協議事項 (1) 第六次塩尻市総合計画 長期戦略案について

○委員長 それでは早速、協議事項に入ります。第六次塩尻市総合計画長期戦略案について説明を求めます。

○企画政策部長 それでは資料、第六次塩尻市総合計画長期戦略案についてを御覧ください。

1の提案の趣旨、2の内容記載のとおり、今回、目指す都市像の候補、それから成果指標として幸福度と総人口の考え方を取りまとめたものであります。

3の経過、下にずっと下りていただいて2行目、6月20日、特別委員会におきまして素案を御協議いただきました。7月10日から現在に至るまで、市内10地区タウンミーティングにて市民意見の聴取を行っております。

裏面をお願いいたします。会議後のスケジュールであります。8月9日、総合計画審議会にて長期戦略案を協議し、9月定例会にて長期戦略案を上程予定としておりますが、本日御協議いただきたい点として、括弧書きにあります、十分な審査機関を確保するため12月定例会での上程も想定とあります。この大きな理由を口頭で申し上げますと、この後、目標人口の現在の考え方を申し上げますが、この設定に当たって現在タウンミーティングで各地区の土地利用の方向性について、幅広く市民の皆様の意見を聞いております。その中で、政策誘導を図る人口については土地の有効活用、あるいは宅地の開発をしっかりと関連づけることによって、より実現性を担保した案をお示ししたいということと、目指す都市像の候補についても御説明をいたしますが、タウンミーティングでも御意見を伺っております。したがって、人口目標、それから目指す都市像につきましては9月定例会においてしっかりと理解、御意見を頂いて調整をしていきたいと考えておりますし、仮に12月定例会にて長期戦略案の上程ということになりますと、第五次総合計画も同じ日程でありましたが、目標人口の裏付けとなる中期戦略の施策、それから新たな市の組織体制、併せて御提示できるものと考えておりますので、この点、何とぞ御協議をいただきたいと思っております。

○委員長 それでは、ただいま部長からありました今後のスケジュールについてですけれども、前回の特別委員会では、8月8日の議員全員協議会での説明を受け、総合計画審議会の答申を受けて9月に提案という予定だったわけですが、このタウンミーティングを開催して様々な御意見が出されていて、委員の皆さんもそれぞれの地域で御参加されて、いろいろな思いがあるかと思います。また、委員からももう少し勉強する時間が欲しいというような申出もありましたので、委員長としては、できれば12月定例会での議決ということに延長ということに変更したいと思いますけれども、皆さんいかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長 御異議ないようでありますので、そのようなスケジュールで進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、内容について説明をお願いいたします。

○企画政策部長 ありがとうございます。それでは主な変更、追加点をまとめた横書きの資料がありますので、第六次塩尻市総合計画、まず目指す都市像の御説明からさせていただきます。今回、1点に絞っていききたいということで「多彩な暮らし、叶えるまち。一田園都市しおじりー」。これに絞りたいということであります。これま

での市民意見、それから現在のタウンミーティングでも広く支持を得ている候補であります。

今回、言葉の意味を表示いたしました。まず、「多彩」でありますけれども、多種多様な地域資源を生かすいろいろな人や暮らしがあって、生活の選択肢が多いという本市の特徴を表します。それから、「自然やお互いの存在へ感謝」とありますが、これは豊かな自然や人のつながり、コミュニティへの感謝が安心・安全で豊かな暮らしにつながっていくという意味です。それから「叶える」という言葉につきましては、前回、委員会で「叶う」という表現はどうかという御意見を頂きました。この両方を詳しく調べますと「叶える」という言葉は、自らの行動で目的を達成していくというニュアンスでありますし、「叶う」という言葉は、周りの環境、支援などによって自然とあるべき姿に到達するというニュアンスであります。両方大切でありますので、都市像の表現は「叶える」といたしますが、その横の説明書き、これは長期戦略の本文に掲載をいたします下線の部分、それぞれ望む暮らしや挑戦したい物事を叶え、叶うことができ、応援する土壌、気質があるということで、長期戦略に明記したいと考えております。叶うための行政支援、環境整備をしっかりと行っていくということであります。それからその下の「田園都市」は、以前御説明をしたとおり、英国の都市計画家、E・ハワードの提唱した田園都市構想を前提に、本市の強みを生かしていくという意味です。

続きまして、2ページ以降が成果指標、幸福度と人口の説明になります。幸福度につきましては簡単に申し上げますが、指標設定イメージの左側、長期戦略の指標イメージということで、10点満点で「あなたはどの程度幸せですか？」という設問をして、毎年度市民の意向を測っていききたいということです。それだけではなくて右側の中期戦略、九つの戦略分野で細かい指標、満足度的なものを測定していききたいということで、一例としましては、個人の幸せとして大切な人を幸せにしていると思うか。あるいは協調的な幸せとして、将来世代によい環境や文化を残したいと思うか等、多くの個別の満足度を測定して、それが総合幸福度とどう関連づけて影響しているかといったことも分析していききたいと考えています。

それからその次のページ、幸福度の目標値・基準値であります。目標は基準を定めてそれを上げていくということであります。基準値につきましては記載のとおり、令和4年12月に「地域福祉計画策定にかかるアンケート」を実施しました。平均6.77点という、これは1,266のサンプルでありますので、これを基準に測定していききたいと考えています。

次のページが、年代別に幸福度をまとめたものであります。右側の緑の囲いを御覧いただきたいと思いますが、30歳代の幸福度が高く、次いで70歳代以上、20歳代の幸福度が低いという傾向です。

次に、5ページの総人口であります。6月には推計人口のみをお示ししましたが、今回、暫定的ではありますが、目標人口の考え方を示して御協議いただきたいと思います。目標人口を計算する上で3項目あります。まず1点目が合計特殊出生率であります。これはコロナ禍の影響で下方修正いたしました。1.43人。この数値を令和4年市民意識調査で希望子ども数1.82人というデータがありますので、ここに段階的に引き上げていきたいということで、それが下のグラフになります。令和7年の1.43人から令和32年に1.82人に引き上げる。これは国も1.80人という目標を立てていますので、整合しているものと考えております。これが計算どおり行きますと、15歳から49歳の女性の人口というのが少しずつ減っていきませんが、年間の出生数につきましては、5年間で約2,500人の出生数が継続して見込めるということで、各世代1歳刻みで500人ずつ少子化に歯止めがかかるという計算になります。これが1点目。

次のページをお願いいたします。2点目として、純移動率（社会動態）。転入、転出の差であります。グラフの

令和2年のところを御覧いただきたいのですが、上の青い帯、これが転入者。下のグレーが転出者。差し引き213人の転入超過になっています。これは令和2年からさかのぼって5年間の合計でありますので、それが右下の表であります。平成28年から令和2年までの転入、転出の集計がトータルで213人転入超過ということで、それはその前の5年、さらにはその前の10年を見ますと、改善傾向にあります。この傾向をさらに強めるために、令和8年から令和12年の5年間で700人の社会増を見込んでいきたい。1年に直しますと140人ずつ継続して増加。こんな目標を立てていきたいと考えています。

その次、3点目として次のページの平均寿命。これは国立社会保障・人口問題研究所で本市の予測もされております。年々、平均寿命は延伸していきませんが、本市では健康増進、介護予防などによって令和17年までにさらに1歳延伸を図りたいということで、全国トップクラスの健康長寿のまちを目指すという目標を立てて、これによっても政策誘導の人口増につながっていくと考えております。

以上の3点を踏まえて、8ページをお願いいたします。将来展望人口であります。現段階の暫定的な考え方がありますが、グラフの左の上を御覧ください。令和2年国勢調査の実際の人口6万7,241人から黒い破線が推計人口であります。少しずつ減っていきます。第六次総合計画最終年の令和14年、6万3,273人に減少する見込みであります。今申し上げました3点政策誘導の1点目として、合計特殊出生率の改善によって約300人。それから転入、流入人口の増加によって1,000人。平均寿命の延伸によって約100人。この推計値からの上乗せ、政策誘導を図ります。合計しますと1,400人になりますので、6万3,273人に1400人を足しますと、6万4,673人ということでありますので、現時点の目標は6万4,000人から6万5,000人と幅を持たせています。

今後、精査をしていきたいと考えていますが、ここには記載はありませんが、現在都市計画マスタープランの地区ごとの土地利用の在り方をお伺いしている中で、いろいろな土地利用の市民要望があります。したがって、特に社会増を測る1,000人につきましては、例えば市街化区域の土地の高度活用、人口密度を高める施策によって何人対応できるのか。あるいは市街化区域外の、例えば市街化編入でありますとか地区計画、あるいは開発等によって何人対応できるか、こういった裏付けデータも整理してまいりたいと考えています。

私からの説明は以上であります。

○委員長 それでは、質疑を行います。委員の皆さんから質問はありませんか。よろしいですか。

それでは、質疑を終了いたします。第六次塩尻市総合計画長期戦略案については、説明を受けたこととして処理をいたします。

2 その他

○委員長 その他、何かありますか。よろしいですか。

ないようですので、理事者から挨拶があればお願いいたします。

理事者挨拶

○副市長 本日は御提案申し上げました案につきまして、御協議いただきまして誠にありがとうございました。引き続き御説明申し上げました内容に沿いまして、あるいは今後のタウンミーティング等勘案いたしまして、さらにスケジュールに沿って進めてまいりたいと思います。また折に触れ、様々な御協議、御意見を賜れればと思っております。本日はどうもありがとうございました。

○委員長 以上をもちまして、塩尻市総合計画特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

午前 11 時 55 分 閉会

令和 5 年 7 月 27 日（木）

委員会条例第 29 条の規定に基づき、次のとおり署名する。

塩尻市総合計画特別委員会委員長 中村 努 印